

すみれ通信 7月号

すみれ通信は、医療・介護に携わる方に
発信しています

(第133号)



第1回市民公開講座報告

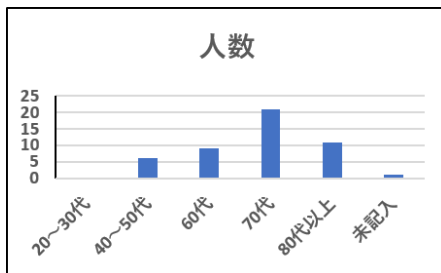
日時：令和8年5月31日(日)
10:00~11:30

場所：藤沢市役所本庁舎 5-1、2 会議室

テーマ：在宅医療って何するの？どうするの？
～難病の父はこうして在宅医療へ～講師：湘南藤沢心臓血管クリニック
安西 兼丈 医師

参加者：49人 関係者10名 計59名

参加者状況：



アンケート：回収数 48

- ・今、親の介護をしています。とても参考になった。人生会議、とても考えます。
- ・ACPの重要性、改めて考えました。
- ・在宅医療について、まったく無知だったので、参加して本当に良かったと思いました。
- ・人生会議ができる状態の時に話し合うことの大切さがわかったことが特に良かった。
- ・「時々入院、ほぼ在宅」いい言葉ですね。納得しました。
- ・一度決めた介護方針でも「見直しをしていい」ということにはっとさせられました。



定員を超えて申しいただき、多くの方にお断りさせていただきましたが、キャンセルを含め当日来られなかった方が多く、事務局としては残念でした。次回から何らかの工夫ができないかと考えています。

第2回多職種研修会のご案内

日時 令和8年7月16日(木) 19:00~20:30

場所 藤沢市医師会館 2階ホール

テーマ 在宅医療を支えるために

多職種で共有したい介護のこと



在宅医療の現場から

御所見いきいきサポートセンター
落合かおる

私が地域包括支援センターで働くようになったのは、地元で貢献できる仕事を探していた時に、知人から勧められたことがきっかけでした。

地域包括支援センターは、地域で暮らす高齢者の方々が、住み慣れた場所で自分らしく尊厳ある生活を続けられるよう、介護・医療・福祉の面から総合的に支える「地域づくりの総合相談窓口」です。社会福祉士、主任介護支援専門員、看護職が連携し、日々の相談対応や支援にあたっています。

看護職として私は、介護予防事業を中心に、高齢者が自身の健康をセルフマネジメントしながら在宅で元気に暮らし続けられるよう支援しています。また、在宅療養の場面では、退院後の生活が病院の提案通りには進められないケースも多く、本人・家族の希望を丁寧に伺いながら、安心して療養できる環境づくりを調整する役割を担っています。

印象に残っているのは、夫が人生の最終段階を迎え、妻にも認知機能の低下がみられたご家庭の支援です。多職種と連携し、退院後に自宅で看取ることができるよう調整しました。「自宅で最期まで過ごしたい」というご家族の願いを叶えることができ、妻や家族から「相談して本当によかった」と言われたことは、今でも心に残る大切な経験です。

一方で、本人とご家族の思いが一致しなかったり、こちらからの提案が受け入れられなかったりする難しさもあります。それでも、御所見地区のどこからでも望める富士山や丹沢連山を眺めると、登山好きの私は「越えられない山はない」と一歩踏み出す勇気ももらっています。

御所見地区は、四十年、それ以上と長年住み続けている方が多く、ご近所同士や同級生、地域活動を通じてお互いを気にかけて温かなつながりがあります。こうしたつながりをきっかけに相談頂けることが多く、支援や関わりにとっても大きな地域の力と感じています。

入職当初は業務の幅広さに戸惑うこともありましたが、今では多職種の方々とスムーズに連携しながら、困難な事例にも取り組めるようになりました。これは関係機関や地域の皆さまのお力添えのおかげだと感じています。これからもひとりひとりの声にしっかり耳を傾け、地域のために支援を続けてまいります。

